

ご挨拶

～代表理事 阿部義通～

JVECのもう一つのコンセプト・「地方の内発的・主体的発展を支援する」

私の若い友人Sさんが3年前ビジネスマンから農家に転身した。家族持ちで小さなお子さんがいる。農業人口がとうとう200万人を割り込み、平均年齢も67歳に上がっている時代。その意味でもSさんには是非頑張って貰いたい、特に中山間地域では人口の減少が著しい。農村が、集落の維持が困難な状況になっている。農村の再生と農業の再建は車の両輪で、この2つに同時に取り組むことが現在の喫緊の課題だ。若い人が農村に向かい、農業に生きがいを感じて取り組むようになるために、私達都会に住んでいる者は何ができるだろうか。(続く)

7月の活動報告

1. 北千住ルミネの屋上菜園の様子



2. エゴマ市民栽培の様子

①武蔵野菜園(現在 草丈60センチ)

②屋上菜園(北千住・御茶ノ水)



北千住ルミネ屋上

三井住友海上火災屋上

3. スーパーフード「モリンガ」の種まき

「奇跡の木」といわれている「モリンガ」の種を提供して下さった、ネイチャーズチェストジャパンの稲端さんと一緒に7/26に北千住ルミネ屋上菜園に種まきをしました。エゴマ・モリンガのスーパーフード区画が実現しました。



JVEC関連ニュース

① エゴマ部会を強化し、エゴマ総合開発研究所へ
エゴマ部会を強化・発展させる形で開設する。目的はエゴマの価値を総合的に開発し、エゴマの生産増加、消費拡大の実現にある。最近エゴマに関するさまざまな情報が増えていることから、まずはデータベースづくりに着手する。現在のエゴマ部会スタッフが活動を担う。データベースをつくることになるので、秘密保持にも留意する。当面、東京サイドで活動開始。コアメンバー2名で構成。順次メンバーを補強していく。今後島根県川本町のエゴマ農家のお2人にも加わって頂く。

② 屋上菜園ガーデンセンター新設
屋上菜園ガーデン普及のための情報発信、相談、提案、受注活動をトータルで行うことが目的。ハード関係(施工、付帯設備)関係とソフト関係(デザイン、栽培ノウハウ、運営管理、ベネフィット提案など)に分けてチームをそれぞれつくる。
「屋上菜園のことならJVECに聞けばいい。専門的なアドバイスをきちんとしてくれる」と企業、個人に思ってもらえるようにしていく。外部の各分野の専門家の参加を打診していく。

③ 週刊ビル経営
＜屋上緑化特集＞7月11日発行に代表理事阿部の記事が掲載されました。

コケの緑化を施工している塩谷建設、
緑化工事の専門会社クリアテラネットワークと
ミヨシフロンティア3社の記事が掲載されています。
ミヨシフロンティアのタイトルは
「次世代型屋上菜園ガーデンで
本業にベネフィット提案」



リレーエッセイ

～ 柏たなか農園のもち麦～

筑波山を望む千葉県北西部柏市の田園地帯。東大農学部出身で元経済新聞記者の経歴をもつ農園主が、地域への関わりと後ろ髪をひく農業への思いから耕作放棄地を開墾して始めたのが柏たなか農園です。

「都市と農村を結ぶ農園」体験型市民農園“土の学校”とがんばらずに自立できる農業をめざして試行錯誤してたどりついた産品がもち麦(もち種の大麦)です。

美味しくてもちもちプチプチな新食感。特に昨今は含有する豊富なβグルカンがもたらすセカンドミール効果／デトックス効果といった機能性食品としてとりあげていただいています。

JVEC会員 松本 岳士

8月の予定

1. 三井住友海上火災保険(株)の屋上菜園の利用者の皆様の交流会(収穫祭)
8月10日(水)午後6時半からが同社の23階のカフェテリアで開催されます。
2. 北千住ルミネで屋上菜園で収穫したスイカのプレゼントイベント
8月21日(日)の夕方より、北千住ルミネ屋上で開催されます。
3. ロールプランターを使ったエゴマの栽培実験
8月上旬、福井県大野市の大型ハウスで始まります。

一般社団法人 ジャパンベジタブルコミュニティ
〒101-0047 東京都千代田区内神田1-10-8
TEL:080-5473-9028 FAX:03-6672-5654